



岩船魂

村上市立岩船小学校
学校だより No.9
令和7年1月15日
<http://www.iwafune.ne.jp/~iwax2-10>
E-mail:school@iwafune-e.murakami.ed.jp

めざす岩船っ子の姿（教育目標） 「深く考え 優しく思いやり たくましくやりぬく子」

『積小為大』

校長 佐藤 進

明けましておめでとうございます。

2025年、乙巳（きのとみ）の年がスタートしました。乙巳の、「乙」は未だ発展途上の状態を表し、「巳」は植物が最大限まで成長した状態を意味するとのことです。この組み合わせは、これまでの努力や準備が実を結び始める時期を示唆しているとも言われています。皆様の中にも、長年続けていること、今年から始めようと思っていることがあるのではないのでしょうか。その努力が実を結ぶ年となることを願っています。

始業式に、岩船小学校にある「二宮金次郎」像について話をしました。日本の小学校でよく目にする二宮金次郎像が、手に本を持ち背中に薪を背負っている像なのに対し、岩船小学校の像は、手に「わらじ」を持ち「すがさ」を首から下げている像です。「わらじ」を持つ二宮金次郎像が全国的にも珍しいということ、岩船小学校を卒業された方ならご存じの方も多いのではないのでしょうか。

二宮金次郎は、現在の神奈川県小田原市に生まれ、若くして両親を亡くしました。懸命に働き、後には飢饉で貧困にあえぐ村々や、借金にあえぐ武士の家を再興させた、江戸時代末期に活躍した農政家です。金次郎は若い頃、拾った稲の捨て苗を田んぼに植え、大切に育てました。すると、1俵もの米が取れました。この1俵をもとにして田を広げ、次の年には5俵、2年後には20俵もの収穫をするまでになったのです。捨てられていた苗も大切にし、日々愛情をもって稲を育てた経験から「積小為大（せきしょうだい）」という名言が生まれ、小さな努力をこつこつと積み重ねていけば、いずれはすばらしい結果に結びつくという教えを伝えました。

これは、どの時代にあっても、どんな時にも言えることです。小学校にあつては、日々の授業が「積小為大」です。2年生が、2学期に九九の勉強をしました。九九をマスターするために、授業の始まりや休み時間に九九を唱えます。校長室でも合格を目指して子どもたちがやってきて、「二一が二、二二が四・・・」と覚えてきた段を披露します。間違えることなくすらすらと言えて初めてシールがもらえます。その積み重ねで九九をマスターしていきます。まさに「積小為大」です。



また、プレイルームには鉄棒が設置してあったのですが、休み時間になると、習得したい技を何回もチャレンジしている姿がありました。5回、10回では、習得できません。50回でもまだです。少し背中を押してあげると、少しだけできるようになりました。毎日繰り返し練習することでコツを覚え、何百回もの練習の末に成功し、歓喜の瞬間を迎えることができたのです。

このように、子どもたちは「積小為大」によって成長していると言って過言ではありません。今後、高校や大学にむけての受験勉強や様々な資格を取るための試験勉強も、まさに「積小為大」と言ってもよいでしょう。子どもたちには、短い時間でもこつこつと小さな努力を積み重ね、自分の夢や目標という大きな成果を達成してほしいと願っています。

*** 保護者の皆様、地域の皆様、今年もどうぞよろしくお願いいたします ***

